

インフォーマルミーティング 第1回計算科学研究部会総会

当学会初の研究部会として発足した計算科学研究部会の第1回総会が、インフォーマルミーティングとして開催された。計算科学研究部会については、本年10月から部会員の募集が始まり、総会までに48名が登録した。11月末を締切として部会長・幹事の投票が行われ、世話人から提案された候補者が全員承認された。内規により、研究部会は総会を年1回以上開催することが定められており、本会合はそれにあたり、約25名の参加者があった。

研究部会の発足に関連して、福山淳（京大）が部会員登録の現状、部会長・幹事の選出、事業計画について報告した。部会長として福山淳（京大）、幹事として堀内利得（核融合研）、矢木雅敏（原子力機構）、浜口智志（阪大）、長友英夫（阪大）の4名が選出された。任期は2年である。事業計画として、メールによるニュースの配信、研究部会 Web サイトの運用、計算科学教育の推進が承認された。引き続き、堀内利得氏（核融合研）が HPCI コンソーシアムの活動について報告した。一般社団法人 HPCI コンソーシアムが発足して2年目に入り、HPCI 共用計算機資源利用課題の公募、「京」の利用状況、今後のHPCI計画の検討状況等が報告され、将来計画におけるプラズマ・核融合分野の位置付けについて議論された。次に中島徳嘉氏（核融合研/IFERC）がBA計画 IFERC 計算機シミュレーションセンターの現状について報告し、Helios コンピュータの運用状況、これまでの成果、第3サイクルの公募・採択結果、日本枠の公募、増強予定等が説明され、増強される多数コアCPUの利用について議論があった。さらに井戸村泰宏氏（原子力機構）が High Performance Computing (HPC) の将来動向について報告し、ペタスケール計算機の急速な進展、ペタスケール核融合シミュレーションに向けたコード最適化、それによる成果、将来のHPCIシステムのあり方調査研究の概要、計算科学ロードマップ白書における核融合分野の位置付け等が説明された。最後に、プラズマ・核融合分野における計算科学教育推進と人材育成に向けて全員討論が行われ、渡邊智彦氏（核融合研）が学会誌に掲載された講座「核融合プラズマシミュレーションの技法」を紹介し、福山淳（京大）が計算科学研究部会が実施できる方策について提案したのち、時間をやや延長して議論が行われた。発表資料は <http://bpsi.nucleng.kyoto-u.ac.jp/dcsr/> に掲載されている。（世話人：京大 福山淳）